

心ゆたかに

発行株式会社天峰建設 袋井市横井 115-3
TEL0538-43-6773 FAX0538-43-7250
ホームページ 天峰建設で検索を
Eメール tenpou@mail.wbs.ne.jp

第 131 号

発行日平成 29 年 9 月 1 日

この機会に是非
ご覧ください



寺社建築では県内で
二例目の石場建て工法

竹林寺様本堂完成見学会

11月20日(月) 午前10時～午後4時まで
浜松市北区初生町580 電話番号 053-436-0239

かねてより施工しておりました、竹林寺様(曹洞宗・桐畑龍雄住職)の本堂が完成しました。7月には山門施餓鬼とかねて檀家さん向けに完成のお披露目会も行われ、大勢の檀家さんが訪れ弊社も焼き鳥、焼きそばを提供させていただきました。

3間の露路は住職の希望で、今年の山門施餓鬼の際にも余裕がありました。本堂内は檀家さんに負担を少なくするため椅子席になっております。

露路(大縁)の奥行3間→
檜のツナギ虹梁と格天井造り→



←弊社製作の須弥壇と雛段。宮大工が作る須弥壇を近くで見てください。

ご来場いただいた方全員に
粗品を差し上げます。

涅槃堂完成と世界一大きな般若心経

「世界一大きな般若心経」奉納記念

金澤翔子書展

平成29年10月26日～11月6日

感謝



会場 龍雲寺 (2560) 2560
時間 9時半～17時 (10月26日 10時開場)
入場無料 寺内拝観料は別途お支払いください。
アクセス 龍雲寺より徒歩15分 (龍雲寺駅より徒歩15分)
お申し込みは電話またはメールにてお願いいたします。
お問い合わせ先 龍雲寺 電話 053-447-1231

龍雲寺 浜松市西区入野町4702-14 (4702-14) 053-447-1231

↑ 10月26日午後2時～
席上揮毫があります

← 完成した涅槃堂

浜松市西区入野町の龍雲寺様で「世界一大きな般若心経」が展示されている、涅槃堂が完成いたしました。完成を記念して右の案内のように「金澤翔子書展」が開催されます。和室や玄関の襖にも墨書が常設展示されており見応えがあります。また納骨堂も併設されているので、納骨堂に関心がある方は一度見学されるとよいのではないのでしょうか。詳しい事は龍雲寺様のホームページをご覧ください。



第二回暁天講座開催 (見性寺様)

八月二六日に見性寺様(磐田市見付)では第二回暁天講座(主催・見性寺様・静岡西教区青壮年部)が、清水寺の森清範貫主を講師に迎え開かれました。聴講は無料、朝六時三〇分から八時三〇分までの二時間

で、見性寺の松山正宗住職の挨拶から始まり、般若心経などを唱え、森清範貫主のお話が始められました。広い本堂に約四百人以上の老若男女が集まり、皆さん森清範貫主の話に真剣に聞き入り、そして時折ユーモアの混じった話に笑い、あつという間に時間が過ぎていきました。

この暁天講座は白隠禅師二五〇年遠諱記念をきっかけに昨年より始まり、中日新聞・磐田市観光協会・商工会議所や市内の数社の企業が協賛しております。そして地域の皆さんから継続してほしいという希望もあり、今後も開催していく予定ということです。



「供養ビジネス」

日本テンプルヴァン(株)井上拓郎

「お坊さん便の未来」

四月は、企業に新しい社員が入社し、学生は新年度を迎え、宗教界でも会計年度が三月末締の場合、新しい年度の始まりでもあります。そんな中、以前お伝え致しました「お坊さん便」という法事などに僧侶派遣のサービスを提供する、「株式会社みんなび」が、総額一〇億円の資金調達を実施したとのプレスリリースをおこないました。

このみんればは、ネット通販大手のアマゾンに僧侶派遣を商品として出品した会社です。(詳しくは「心ゆたかに」二二二号)をご覧ください)

この資金調達は、葬儀に関する情報の少なさ、宗教界のIT化の遅れ、宗教心の希薄化などを要因とした旧態依然とした葬儀ビジネスにおいて、葬儀ベンチャーとしての事業拡大をおこなう為の資金調達によるのです。東京では、菩提寺を持たない世帯が六割七割いると言われておりますが、こういった、初めて葬儀を依頼する世帯をターゲットにした葬儀受注のビジネスモデルなのだと思えます。

一昔前、または地域によっては、家族の誰かが亡くなれば、菩提寺か親族の年長者

に相談することが一般的でした。しかし、IT化(情報化社会)が進んだ現代においては、先ず「ネットで検索する」といった方が、大多数なのが現実です。また残念ながら、ネットの情報が必ずしも正しく無いのも事実です。皆さんのお寺でも、お布施などについて事前に調べて、ネットの情報を鵜呑みにされるお檀家さんはおられますか? 「うちのお寺に限ってはそんな事はない」と言われるご寺院は、寺檀関係が良好なのだと思えます。引き続き良好な寺檀関係を維持していただければと思います。

葬儀、及び周辺市場と合わせますと、四兆円の市場規模と言われておりますが、このなかでお布施などの寺院の宗教活動に対する金額は、二割も満たないと思えます。

しかし間違いなくこの比率は、この先少なくなっていく傾向にあります。この先二〇四〇年ごろまでは死亡者人口の増加により、市場規模は拡大傾向にあると、メモリアル関連産業は見込んでおり、新規参入や事業拡大を目指していくと推測できます。お布施に関わる部分においても、僧侶派遣という形で、一般企業の参入が現実となってしまうている現代においては、宗教界対メモリアル関連産業とのせめぎ合いは避けては通れない道なのかもしれません。一寺院としては、資金力や慣習にとらわれ

ないこれらの企業に太刀打ちすることは、並大抵の事ではないと容易に想像ができません。

また同時に現代のニーズにマッチできていない宗教界があることも認識しなくてはいけないかもしれません。そのなかで「変えるべき事」と、「変えるべきではない事」を、よく見極める事が重要なのだと思えます。

「消費者のニーズ」

僧侶派遣という形で、お布施に関わる部分にまで、一般企業が開わる時代になってしまいました。宗教行為に関わるお布施にまで営利企業が開わるなど、もつてのほかと思われの方が大半だとは思いますが、「お坊さん便」に登録している僧侶の数は七〇〇名いるそうです。このなかには、こういった僧侶派遣のサービスを肯定的に捉えている僧侶もおり、新しいビジネスチャンスと捉えている方も多数居るようです。

この現象は、一昔前であれば、業界内で異質と思われておりましたが、利用する消費者の方々には、時代の変化と共に致し方ない認識を持たれているようです。しかし一方で、まだまだサービスの質を担保出来ていないとの声が散見されます。

金額ありきの供養ビジネスは、限界があるのかもしれませんが。

知って得する 秋の大掃除の話

大掃除といえば年末の恒例行事ですが、忙しい師走また雪が降るような寒い日もあります。そして改めて考えてみると、この大変な時期に、わざわざ大掃除をする必要があるのでしょうか。今それに気付きはじめて人たちの間で秋の大掃除が新しい常識になりつつあります。

温度も湿度も高かった夏に繁殖したダニ・カビ・バクテリア・雑菌をはじめ人間の汗や老廃物などの汚れのモトが沢山残っています。カビや雑菌は人の汗や皮脂、食べかすなどの老廃物をエサとして繁殖を繰り返し、雑菌は増殖時にいなや臭いを排出します。つまり秋を迎えた室内には、夏の間に蓄積した様々な汚れと臭いが残った状態です。



このような環境を通常の掃除で終わらせてしまつては、汚れのモトが周りに

広がり、ラグマットやソファの繊維の奥まで浸透し、汚れが落ちにくくなつてしまいます。汚れは時間が経てば経つほど落ちにくいだけではなく、その中で生活しなくてはいけません。秋の大掃除はそうした汚れを放置せず、早めその原因を排除して年末に大変な思いをしなくて済みます。

また秋ならではのメリットとしては
・気温が低くないので油汚れが取りやすい。

・気候がいいので窓を開けて風通しをよくして換気ができる。

・空気が乾燥しているので大物も洗えてよく乾く。

・寒くないので、厚着をしなくてもよいので動きやすい。

・年末に比べて日が長いので掃除の時間がとりやすい。

・夏に酷使したエアコンのよごれを早い段階でとれる。

・専門業者に頼む場合は日程もとりにやすく、価格もお得になることもある。

・衣替えも同時にできて洋服の整理もできる

以上のように秋の大掃除は年末に比

べていいことが多く、また年末は仕事も忙しく疲労もたまりやすい時なので、ぎっくり腰などが増えるようです。そして年末が近づくにつれ「やらなくてはいけない！」という強迫観念に駆られる人も多いと思います。忘年会やクリスマスなどの、楽しいイベントが盛り沢山な年末に大掃除の事を気にしなくていいなんて夢のようですね。

そもそも年末の大掃除は「神事」であり、日本古来より伝わる年中行事とされてきました。家庭で年末の大掃除が行われるようになったのは、「新年を迎えると、神様が各家庭を訪問し新年の幸福を持つて来てくれるので、きれいにしてお神様を迎えたい」からだと思



年末にギックリ腰になったらお正月も台なし！

思います。やっぱり大掃除は年末派という方も多いと思いますが、秋の過ごしやすい時期を有効に活用にするのもいいのではないのでしょうか。